



ひなまつり(3がつ3にち)

ひなまつりは、もともと五節句のひとつ。『上巳(じょうし)の節句』と呼ばれ、中国から伝来したお祭りの1つです。上巳とは、昔の中国で3月の巳の日(3日)のことで、病気などが流行りやすい日と言われていました。そこで、お酒やお供え物をして、人形が病気や災いを身代わりに背負ってくれますようにと願いを込めて川や海に流しました。これが「流しびな」の原型です。

平安時代にこの行事が日本に伝わった時に貴族の間では紙の人形を使った「ひいな遊び」と呼ばれるままごと遊びが行われ、この「ひいな遊び」と『上巳の節句』に日本に昔からあった身代わり信仰が加わって初期の流しびなになり、その後、人形は豪華になり部屋に飾るようになっていき、現在の「ひなまつり」になりました。

江戸時代には、男児の「端午の節句」に対する女児の節句とされてきましたが、現在は男女を問わず、子どもの健やかな成長と幸せを願う行事となりました。



北保育所で大切にしたいこと

○ひなまつりの由来を知る。

○成長への願いを込めてひな人形を飾ったり見たりして
楽しい雰囲気味わう。



★『桃の節句』ってなあに？

旧暦の3月3日が桃の花が咲く季節であることと、桃には邪気を払うという魔除けの信仰があった為、『桃の節句』と呼ばれるようになりました。

★段飾りひな人形について

ひな人形は結婚式の場面を表現したのですが、江戸時代になると、宮中の天皇、皇后を模した内裏雛を中心に御所に仕える人々を段飾りにして並べるようになり、江戸時代の身分制度を反映したのもでもあります。

★日本の伝統行事でもあるひなまつりを大切に、これからも子ども達が健やかに大きくなっていきますようにとの願いを込めてお祝いしたいと思います。

